森のひろば

フォレスト・ニュース

NO. 1053
25年11月

近畿中国森林管理局

大阪市北区天満橋1-8-75 TEL 050-3160-6763
http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/

トピックス

「水都おおさか森林の市２０１３」が開催されました!

【森林整備部 技術普及課】 １０月６日（日）、近畿中国森林管理局及び毛馬桜之宮公園において、「水都おおさか森林の市２０１３」を開催しました。当日は好天に恵まれたこともあり、約１万人の来場者で賑わいました。

「森林の市」は、森林・林業に関わる行政や関係団体、地元等が連携・協力して開催してきた催しで、今年で２７回目となります。

今年の「森林の市」は「来て！見て！触って！ 木の文化 大川端は森林だくさん」をテーマに、来場された方々に、都会にいながら森林の恵みや木材にふれる機会を提供することで、森林・林業の役割や大切さ、木材利用の重要性について理解を深めていただくことを目的に開催しました。

深刻化するシカ問題について理解を深めていただくため、今回はじめてシカ被害の現状や対策を紹介するコーナーを設けました。ここでは、狩猟用模擬銃を構えたり、狩猟用檻わなに入ったりと多くの方が感心を示していました。

「水源林の森」ジオラマづくり体験コーナーでは、水源林の役割や重要性の説明の後に、木の皮や草の根、水苔などを使い水源林を表現するジオラマづくりを体験していただきました。このコーナーは毎年大盛況で待ち時間がでるくらい人気のコーナーとなりました。

また、近畿中国森林管理局ブースでは、森林の名手・名人による匠の技の伝承、木製品の展示、来場者からの木と緑に関する質問などに答えるコーナーや当局の事業内容や取組み状況などについて紹介を行いました。

他のブースでは、国産棺桶の入棺体験、丸太切り、間伐材や自然素材での木工クラフト、ミニ欄間づくり、ロケットストーブの実演、光学測量機械による測量体験、地引網で生物調査、キッズボートの水上体験など様々な体験を楽しんでいました。特に街の材木屋さんとイスづくり体験、国産炭火の焼きしいたけ体験、シカ肉の試食やつるかご編み教室などは人だかりができる程でした。

これらを含め５８出展団体による様々なブースが並び、子どもから大人まで楽しく有意義に過ごせた催しとなりました。

来場者からは、「会場一帯で木の香りがしていい感じ。」「出展参加した子どもの影響で私も参加しています。子どもは林野庁に就職しました。」「楽しかったです。森や林を大切にしていこうと思います。」など沢山の声が聞かれ、盛況のうちに終了しました。

森林の市　会場の様子

水源の森ジオラマづくり体験

模擬銃体験

狩猟用檻なわ

国産材を使った棺の入棺体験

地引網で生物調査

ドラゴンボート

丸太切り体験

箕面市民イベントに参加！「オオクワガタの棲める森づくり」で出展

【箕面森林ふれあい推進センター】　台風２７号が過ぎ去って秋空が広がる１０月２７日（日）、山とみどりの市民イベント実行委員会・箕面市主催による「みどり生き生きみのお生き生き体験フェア」が大阪府箕面市の『かやの広場』で開催されました。このイベントは山の保全や自然保護などに関わる市民団体やＮＰＯの活動を紹介し、共に考え行動していくための催しとして毎年４月と１０月の２回開催されています。当センターも箕面国有林で取組んでいる「オオクワガタの棲める森づくり」のPR のため出展しました。

当日は「オオクワガタの棲める森づくり」のパネル展示とパンフレット配布のほか、森林の水源かん養機能など知ってもらうための取組みとして「水源の森ジオラマづくり」を併せて行いました。

この取組みは、スタッフとして「きんきちゅうごく森林づくりの会」の２名の応援を受けて進めることができました。

当センターは、長机２基を工作台にして「水源の森ジオラマづくり」を来場者の方に楽しんでもらいました。一度に工作できるのは７名でしたが、開始と同時に満員となり終了まで絶え間なく参加者が来てくれましたが、作成には１時間程度かかることから参加できずに残念そうに帰られた方もおられました。

水源の森ジオラマづくりは、まず始めにパネルを使って森林の機能のうち水源かん養について子ども達へ説明をして、その後に、ジオラマを作ってもらっています。お待ちかねのジオラマづくりに取りかかると、子ども達は夢中になって作っていました。子ども達が作っている間､後ろでじっと見守るお母さんや、見かねたお父さんが途中から作り出したりなどほほえましい場面がみられました。皆さん作品が仕上がるとうれしそうに帰って行きました。

アンケートでは、「水源の森をイメージして小さな水源を作ることで自然の大切さを学ぶことが出来たと思います。」と答えていただいた方があるなど森林の機能についても子ども達に学んでもらえたことと思います。

落第忍者乱太郎『京都の森を守ろう』清水の舞台裏を探検！

【京都大阪森林管理事務所】　９月 28 日（土）、京都東山周辺及び高台寺山国有林において、第３回目の「落第忍者乱太郎『京都の森を守ろう』清水の舞台裏を探検」を開催しました。

このイベントは京都の東山を歩きながら森の様子を観察したり、清水寺の阿弥陀堂と奥の院の修復現場や寺社の屋根などに使われるヒノキの皮剥ぎ見学、木工教室などを通じて、身近な自然を感じていただこうと、京都大阪森林管理事務所、京都伝統文化の森推進協議会、朝日新聞、京都市、京都森林インストラクター会等が協力して開催し、当所からは、３名の職員がスタッフとして参加しました。

当日は絶好の晴天の中、親子約 200 人の方々に参加いただきました。普段見ることができないお堂の修復現場や原皮師（もとかわし）の見事な技でヒノキの皮が剥がされる様子に見入り、時折大きな歓声があがっていました。

また、京都森林インストラクター会から京都の森の現状についての説明を聞きながら林内を散策し、山頂公園では木材に親しんでもらおうと木の名札づくりを体験していただきました。

ゴールとなった清水寺では、大西清水寺執事長からこどもたちに京都東山の状況や森を守ることの大切さについて説明があり、その後プレゼント抽選会を行い参加者の大きな拍手と笑顔で終了しました。

民国連携推進会議を開催

【計画保全部 計画課】 10月17日（木）～18日（金）の２日間にかけて、平成25年度民国連携推進会議を開催しました。

一般会計化後の国有林においては、森林・林業再生への貢献に向けて、これまで以上に民有林との連携を深めることが重要となっています。このため、各署等で民有林との連携を進めるうえで中心的な役割を果たす森林技術指導官や地域林政調整官を対象に、民国連携等に係る情報の提供、意見交換等を行いました。

初日は、林野庁から３名の講師を招き、地域の実情に応じた間伐の実施・路網の整備、木材加工・流通施設整備など川上から川下に至る総合的な対策の実施や、国有林と隣接する民有林が連携して施業等を実施する森林共同施業団地の取組みや民有林における補助事業の仕組みなどについて説明を受けました。

その後、出席者は４つのグループに分かれ、与えられた課題についてＫＪ法※によるグループ討議を実施し、問題点、対策等を取りまとめて発表を行いました。これは、各グループに与えられた課題に対し、それぞれが問題意識を持ちグループでの討議を経て、一定の考え方等を整理するといった過程を重視したもので、今後、民国連携をより一層推進するために私たち職員に必要な意識の転換や、共通の認識を得るという意味で非常に有意義なものとなりました。

※　ＫＪ法（ケージェイホウ：名称の由来は発案者である川喜田二郎氏のイニシャルから）とは、問題解決の手法。具体的には、グループで様々なアイデアをカードに書き出し、問題解決の糸口を探るための方法。

２日目は、森林共同施業団地における質的向上のための取組みや民有林と国有林との一体的な整備・保全を推進するための取組むべき課題、人材の育成等について局内の関係する各課からの伝達事項の説明や、これらの取り組みに対する各署等の個別ヒアリングを行いました。

今後の積極的な民国連携に向け統一した意識を醸成することができた２日間となりました。

「ニッセイ三和の森」で育樹活動

【広島北部森林管理署】 １０月１２日（土）、朝夕とようやく秋めいてきた神石高原町（じんせきこうげんちょう）の「ニッセイ三和の森」（東山国有林）において、ニッセイ緑の財団、日本生命福山支社などから合わせて約４０人が参加し、育樹活動として枝払作業を実施しました。

作業開始にあたって、署長挨拶の後、森林技術指導官から枝払の意義や方法、安全作業についての説明を行い、３班に分かれ署職員の指導のもと各作業エリアでうっそうとしたヒノキ林の枝払を実施しました。

参加者は、普段あまりノコギリを使い慣れていないことや、足元の悪い山の急斜面での作業でもあり、最初はなんとなくぎこちない動作での作業したが、本数をこなすたびコツをつかみ、最後には予定した区域を越えてまで作業に集中していました。

作業終了後には「林の中がすっきりした」等の感想を多くの方から頂き、秋晴れの県北の森でここちよい汗を流した一日でした。

こどもちゃれんじ教室
～遊々の森「イキイキ学びの森」～

【三重森林管理署】　１０月１２日（土）、三重県伊賀市に位置する焼尾（やきお）国有林の「遊々の森」で「こどもちゃれんじ教室」が開催されました。この教室は、同市阿山公民館が年間を通じて開催する公民館教室行事の一つで、当日は、地域の小学生９名が集まりました。小学生たちは、秋晴れの空の下、実をつけた林の木々に秋の訪れを感じながら、当署職員のサポートのもと、樹木観察・木工工作などの体験活動を通じて森林のはたらきについて学習しました。

まずはじめに、模型を用いた実験により、草木が生えている山と草木が生えていない山に雨が降ったときに生じる現象を比較することで、森林の保水機能と土砂災害防止機能について学習しました。小学生たちは、ジョウロで模型に水をかけながら、草木が生えていない山の方は、たちまち表土が流れて崩れていく様子を観察しました。

次に、林の中を散策しながら、樹木の特徴などを観察しました。アカマツの球果やコナラの実（ドングリ）を見つけたり、赤いソヨゴの実を拾ったり、アカマツの葉を拾ったり、ニホンジカの食害を受けたリョウブの樹皮に興味を持ったりと、各々にいろんなものに興味を示していたので、その都度立ち止まって説明を加えながら進みました。そして、名前を覚えた木に樹名板を取り付けました。

最後に、散策の途中で自分で切った間伐材や木の実を使ってキーホルダーやペンダントを作りました。クヌギやコナラの実（ドングリ）、アカマツの球果などの木の実を巧みに組み合わせて、独創的な作品を仕上げ、満足そうに持ち帰りました。同時に様々な木の実の名前を覚えることもできました。

集まった小学生たちは、「遊々の森」での活動を通じて、森林のはたらきや森林の恵みに触れ、木の実や丸太など自然の素材を使う体験をし通じて、様々な「気付き」や「発見」をすることができました。

山口市立徳佐小学校の森林環境教育
～小枝で作る笛　木ってすごい！～

【山口森林管理事務所】　１０月２１日（火）、山口市立徳佐小学校工作クラブの子ども達を阿東森林事務所に招き、森林環境教育の一環として木工教室を開催しました。

今回の木工教室は、山口森林管理事務所職員と山口市立徳佐小学校職員が子ども達に身近な森林の恵みに触れ、森林への理解を深めてもらうため、わかりやすく、楽しめる教室として何か出来ないかといろいろと案を出し合った結果、サクラの枝を使った笛づくりに取り組むこととしました。

当日は、小学校から歩いて５分程の近くにある阿東森林事務所に集合し、和室に机を並べて木工教室を開催しました。

はじめに、当所長から笛の作り方の説明を聞くと、子ども達は「できるかな～」と少し不安な様子でしたが、作業を始めると不安はどこへやら、真剣な目つきで取り組んでいました。

サクラの枝に吹き口を作る作業では、小刀やのこぎりを使いますが、六年生ともなるとさすがは最上級生、慣れた手つきで道具を使い上手に削っていました。

四年生は、「初めての小刀」ということもあり、うまく削れず泣き出してしまう子もいました。しかし、泣きながらも諦めず、一生懸命最後まで取り組む姿に、逆に励まされました。

全員の笛が「ピー」と鳴ったところで作業も終盤、吹き口を「口」に見立てて活動眼を貼り付け、自分の名前を書いたネームプレートを付けたら、オリジナルの笛が完成です。

活動眼をたくさん付けて怪物にしたり、紐をはちまきの様に巻き付けている作品もあり、面白く、かわいらしい笛たちが完成しました。

最後には世界に一つだけの「木の笛」を持って記念撮影！みんなの輝く笑顔が印象的でした。

学校までの帰路は作ったばかりの笛の音が鳴り響いていました。

山を愛してください。第２４回ふれあい森林教室開催

【島根森林管理署】 １０月１８日（金）、吉田国有林（安来市）「安寿の森吉田」において森林教室を開催しました。

現地は吉田寿会（地元敬老会）と「社会貢献の森協定」を結んでおり、当日は安来市役所や吉田交流センター、吉田寿会の皆さんにも参加・協力していただき、安来市立南小学校の５年生児童１６人を迎え行いました。

まず、署長が「山を愛してください。５０年後１００年後を想像して見て下さい。今見ている景色を覚えていてください。」と山に対しての関心を高めてもらう挨拶で始まりました。

午前中は、ヤマザクラの植樹（５本）や標柱の埋設、職員による紙芝居「森林からの贈り物」、その後、林内を散策しながら、森林の仕組みや間伐の必要性などを学んだり、ネーチャーゲームを行い、普段あまり触れることの出来ない風景や森林の中の音など、五感をフル回転させ自然と触れ合いました。

昼食には、吉田寿会から豚汁の差し入れがあり、全員で美味しくいただきました。中には余りのおいしさに２杯、３杯とお代わりをする児童もいました。

午後からは、しいたけのほだ木づくりを行いました。自分で持ち帰るほだ木を作るとあって、少しでも太い木を選ぶ児童、大変だからと細い木を選ぶ児童と様々でしたが、寿会の皆さんにも手伝ってもらい、全員が汗だくになり原木を約９０センチに切りそろえました。その後、各自ドリルで穴を開け、種駒を打ち込み名札を取り付けました。出来上がったほだ木は学校で保管し、卒業式の日に家に持ち帰ることとなっています。

木工教室では、ナツツバキの輪切りを利用したキーホルダ掛け作りや、サクラの枝を利用したモックン作りに取り組み、感性を活かした個性豊かな作品が出来上がりました。

子供達は出来上がった作品を手に満足した様子でした。

また、今回の森林教室では吉田国有林の所在する上吉田地区より４名の児童が参加し、地区内での世代間交流の場となりました。

最後に南小学校の児童代表から「今日は、学校では出来ないたくさんの体験をさせてもらいました」とお礼の言葉をいただきました。

今後、子供達が自然の中での体験等を思い出して森林、林業に興味をもってもらえればとの願いを込めて森林教室を閉会しました。

林業専用道現地検討会開催

【福井森林管理署】 ９月２６日(木)に､勝山市の細野(ほその)国有林において｢林業専用道現地検討会｣を開催し､福井県内の市町の担当者、森林組合、請負事業体のほか水源林整備事務所などの関係１２団体が参加しました。

署長挨拶の後、総括治山技術官から整備対象林分の今後の森林整備を踏まえたルート選定の考え方等について説明し、その後参加者全員で工事起点から終点間の視察を行い、現地発生材を活用した路盤改良や水処理等について、署担当者から技術面での説明を行いました。

意見交換では、支障木の処理、のり面整形等について議論を行い、林業専用道開設においてはコストを削減しつつ森林施業がし易く壊れない道づくりを行う工夫が重要であると参加者全員が確認出来たところです。

ヤマザクラなどの植樹活動を実施
～（株）日本触媒水源の森づくり～

【兵庫森林管理署】 10月19日（土）、株式会社日本触媒は、CSR（企業の社会的責任）活動の一環として、宍粟市赤西国有林（日本触媒・水源の森）において、今年度最後の森林整備（植樹活動）と森林散策を行いました。

当日は、遠路大阪府や兵庫県姫路市方面から社員とその家族34人が参加しました。、

今回の活動のメインは植林作業で、夏の活動で地拵え作業を行った箇所に、ヤマザクラとトチノキそれぞれ25本を植付しました。

植林作業に当たっての注意事項等は、ひょうご森の倶楽部員や当署の職員がわかりやすく説明をしました。

作業は家族や同僚のグループに分かれての作業となり、子ども達はもちろん若手社員たちも普段使い慣れない鍬に悪戦苦闘しながらも、一生懸命に穴を掘り、丁寧に植樹しました。また、植樹したヤマザクラ等をシカの食害から守るために、サプリガード（食害防止用ネット）も設置しました。昼食後は、この「水源の森」の近くにそびえ立つ、先代の木（推定樹齢４百年の杉）を訪れ、子ども達や大人達もみんなで手を繋いで木の幹周りを測ったり、大木を肌で感じながら全員で記念撮影をしました。

また、先代の木からの帰りは、植林地までの林道を歩き、少しずつ色づき始めた赤西渓谷の自然観察等を行いました。

参加した社員や子ども達は、植樹体験や木々に触れることを通じて、植樹の大変さや自然の豊かさに接するよい機会となったようです。

５年計画で取り組んできた森林整備活動等は、今年度が最終年で、来年度以降もこの５年間の活動を踏まえて新たな計画を検討中で、引き続き、ここ赤西国有林から森づくり活動が発信されます。

花草木

今号は菊です。
開花時期は10月半ば～12月半ば、と秋や日の短くなってきた季節の花のイメージではないでしょうか？
菊は「短日植物」になるので、夜の時間が長くなると花芽が反応しはじめます。
春の桜と並んで、日本を象徴する花として様々なトコロで見かけるのでは？
50円玉、パスポート、天皇杯のトロフィー、花札、日本水準原点の蓋にも書かれていたりします。
また、色や種類や用途も沢山ある菊。
献花でよく使われる、白いスタンダードなものから、枝いっぱいの小さな花が咲くもの、細長い花びらで花火のようなもの、もふもふの丸い花のもの、ピンクやベージュに緑と色も形も様々！
そして！見るだけではありません。
お茶にお酒、おつまみに！
品種によっては食用になる物もあり、お茶やお酒にも使用されています。
慶弔事から酒のつまみまで、花びらのように話題満載の菊でした。

お知らせ

「森とのふれあいスタンプラリー」開催中！！

奈良森林管理事務所では、レクリエーションの森に指定した国有林を巡るスタンプラリーを実施しています。

本スタンプラリーは、国民の皆様が森林に親しみを感じ、災害の防止や生物多様性の保全、レクリエーション機能など森林の役割を知っていただくとともに、奈良県内のふるさと産品の紹介や地域の交通機関を利用していただくことにより県内の地域振興等を図ることを目的としています。

スタンプを集め応募すれば、ふるさと産品の抽選に参加できますので、ぜひとも皆様のご参加をお待ちしております。

開催期間：～平成26年2月14日まで
設置場所：奈良県内6箇所のレクリエーションの森及びその周辺
詳しくは、奈良森林管理事務所ホームページ内
http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/nara/information/h240928sutanpurari.html

森林（もり）のギャラリー（局庁舎1階）

【１１月の展示スケジュール】
テーマ：自由展示

11/11～11/15 「第２６回きりえ葉月会展」ー人と自然ー【きりえ葉月会】

11/18～11/29 「平成の京町屋」の取組【京都市　住宅政策課】

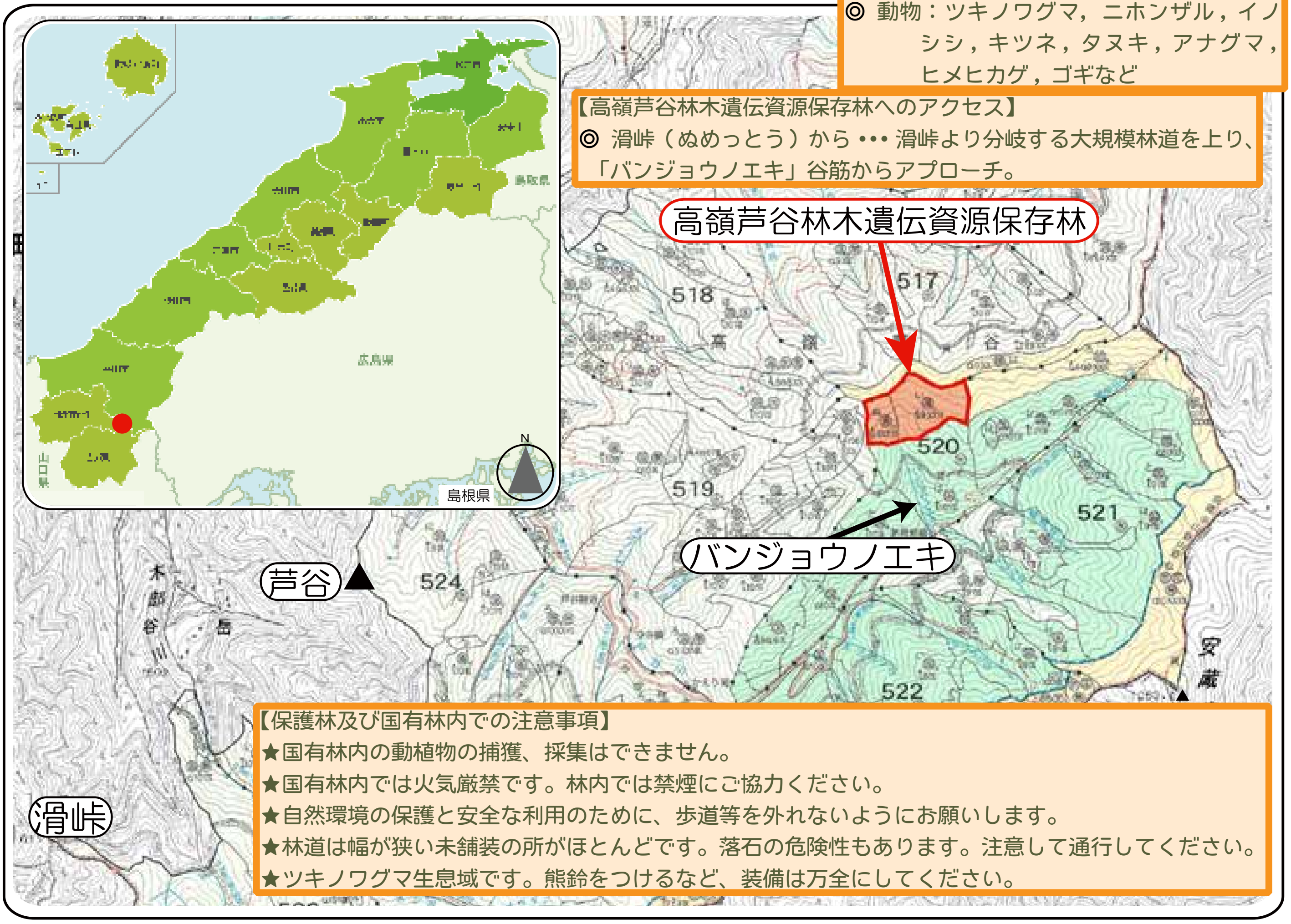
近畿中国森林管理局の保護林

高嶺芦谷林木遺伝資源保存林（こうれいあしだに） ［高津川森林計画区］

　高嶺芦谷林木遺伝資源保存林は、島根県津和野町に位置する高嶺芦谷国有林にあります。
希少樹種等の天然分布地を保護し、スギ、ヒノキ、モミ、ブナ、クリの林木遺伝資源を保存することを目的として保護されています。
　この保護林の面積は６．６９ha で、水源かん養保安林にも指定されています。
　町の境界にある安蔵寺山（あぞうじやま）（１２６３．２ｍ）には登山道が整備されており、休日には登山者が訪れています。

【高嶺芦谷林木遺伝資源保存林に生息・生育する動植物】
◎ 植物：スギ，ブナ，ミズメ，ホオノキ，コハウチワカエデ，イヌシデ，クマシデ，トチノキ，ハリギリ，チマキザサ，クロモジ，コアジサイ，イワガラミ，アキチョウジ，エビネ，オオキジノオなど
◎ 動物：ツキノワグマ，ニホンザル，イノシシ，キツネ，タヌキ，アナグマ，ヒメヒカゲ，ゴギなど

【高嶺芦谷林木遺伝資源保存林へのアクセス】
◎ 滑峠（ぬめっとう）から ••• 滑峠より分岐する大規模林道を上り、「バンジョウノエキ」谷筋からアプローチ。



【保護林及び国有林内での注意事項】
★国有林内の動植物の捕獲、採集はできません。
★国有林内では火気厳禁です。林内では禁煙にご協力ください。
★自然環境の保護と安全な利用のために、歩道等を外れないようにお願いします。
★林道は幅が狭い未舗装の所がほとんどです。落石の危険性もあります。注意して通行してください。
★ツキノワグマ生息域です。熊鈴をつけるなど、装備は万全にしてください。